

家庭教育支援実践交流会 開催報告

趣 旨

核家族化、地域のつながりの希薄化、そして昨年から続くコロナ禍等、家庭を取り巻く環境が大きく変わり、子育ての悩みや不安を抱えた家庭の増加等、家庭教育を行う上での困難な現状が指摘されている。また、様々な課題を抱えつつ、地域から孤立し、自ら学びや相談の場にアクセスすることが困難な家庭等、支援が届きにくい家庭への対応や、児童虐待など子どもをめぐる状況が懸念される中、本県においては地域の実情に応じ、多様な人材による家庭教育支援活動が展開されている。そこで、各地域で家庭教育支援活動に取り組む人材等が集まり、家庭教育支援活動の現状や推進・人材確保方策等について学び、情報交換や情報共有をすることで、県内家庭教育支援活動のさらなる充実を図るために本研修を実施した。

日 時 令和4年1月28日(金)13:30~16:00(受付13:10~)

参加人数 72名

会 場 滋賀県立男女共同参画センター 大ホール(オンラインによる参加も可能)

対 象

- (1)国庫補助事業「地域における家庭教育支援基盤構築事業」実施および実施検討市町担当者
- (2)家庭教育支援員、家庭教育支援チーム員等
- (3)民生委員・児童委員
- (4)各市町教育委員会家庭教育担当者、各市町教育委員会教育相談担当者、各市町児童福祉主管課子育て支援担当者
- (5)子育てサポーター、子ども家庭相談員、スクールソーシャルワーカー、その他家庭教育支援関係者等

日 程 13:30~13:40 ○開会行事(挨拶、日程説明)

13:40~14:20 ○実践事例発表
・発表者1:近江八幡市家庭教育支援チーム(15分間)
・発表者2:日野町家庭教育支援チーム(15分間)
・質疑応答:(10分間)

14:20~14:30 ○休 憩(10分間)

14:30~15:30 ○講 演(60分間)
演 題:「今、求められている家庭教育支援とは」
講 師:上村 文子氏(滋賀県スクールソーシャルワーク スーパーバイザー)

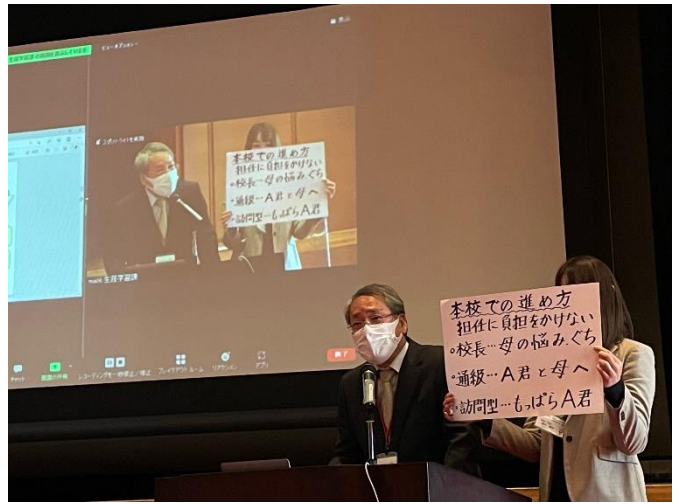
15:30~15:55 ○質疑応答・意見交換

15:55~16:00 ○閉 会

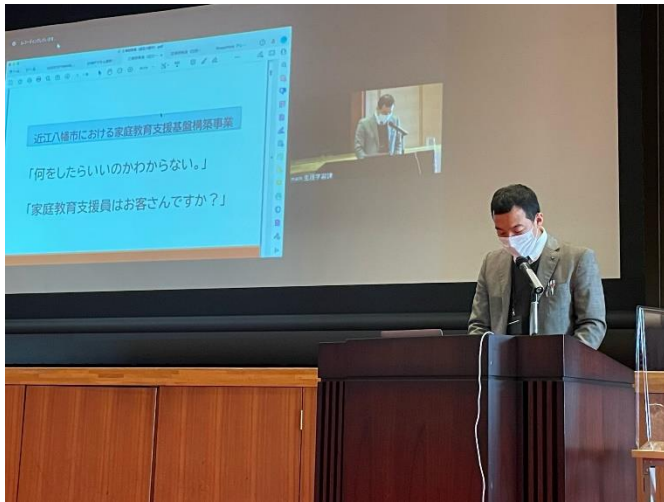




会場参加の他、オンラインによる参加も可能としました。



日野町の実践事例発表



近江八幡市の実践事例発表



講演「今、求められている家庭教育支援とは」
滋賀県SSWSV 上村文子氏

参加者の声(受講者アンケートより)

- 困っていきそうな家庭ほど、自分からはなかなかSOSを出せないという実態があり、そういった家庭に支援の手が届くように何とか支援ができないものかと考えているところです。
- 家庭教育支援員の存在を「家庭教育支援研修会」で知り、岩国市の取組に感銘を受けました。滋賀県内でもしっかりと体制ができ、家庭教育支援員の方が活躍されていることを知り、大変刺激になりました。
- 家庭教育支援は、コロナ禍でさらに必要とされていることが分かりました。コロナによる社会の変化にどう対応していけばよいのかを学ぶことができました。また、家庭教育支援施策を課で線引きせず、「たて・よこ・ななめ」の関わりが重要だという共通理解をもって取り組んでいきたい。
- “つながり”が大切で、つながりがうまく機能すると、たくさんの子どもが安心して過ごせるのではないかと思います。そのため、の仕組みづくりのヒントがもらえてよかったです。
- 信頼関係の貧困は、人と人のつながりでしか解決できないというメッセージが印象的でした。ありがとうございました。

